

新年のご挨拶

(一社) 岩手県障がい者スポーツ協会 名誉会長 (岩手県知事) 達増 拓也



年頭に当たり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。
一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会会員の皆様方におかれましては、日頃から本県の障がい者スポーツの普及・発展に御尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

平成 29 年 1 月に、希望郷いわてで大会の成功を受け、多くの関係団体から熱意ある御支援をいただいて設立した岩手県障がい者スポーツ協会は今年で 4 年目を迎えます。この間、障がい者スポーツの普及振興を図り、障がい者の自立と社会参加を促進する様々な取組を展開しているところであり、本県の中核組織として、協会への期待は年々高まってきております。いよいよ今年は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。県内では、「復興の火」の展示やオリンピック聖火リレー・パラリンピック聖火フェスティバルに加え、ホストタウン事業やブラジル視覚障害者 5 人制サッカーを始めとした事前キャンプ受入れなど、様々な取組が予定されています。こうした取組を契機に多くの県民の方々にスポーツの素晴らしさを身近なものとして実感していただくとともに、障がいのある人もない人も、共にスポーツを楽しむ機会の拡大を図り、誰もが互いを理解・尊重しながら生きる社会の実現を目指してまいります。今後とも、障がい者スポーツを推進する協会の取組に一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員の皆様方の御健勝、御多幸をお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

(一社) 岩手県障がい者スポーツ協会 会長 藤井 公博



2019 年、令和元年も様々な出来事がありました。特に第 19 回全国障害者スポーツ大会・いきいき茨城ゆめ大会の中止は、大会出場を目指して努力を重ねてきた選手、関係者にとって、とても残念な結果となりました。また、数年間に渡り、開催のための準備を重ねてきた茨城県の皆さんにおいては、私たちが、想像できないくらい大きな失望であったことと思います。そんな中でも中止決定後、茨城県からの帰路に就く各選手団に対して温かくお見送りしていただく姿に感謝の気持ちと、何とか開催させてあげたかったという複雑な思いになりました。

さて、2020 年はいよいよ東京パラリンピックの開催年となります。本県からは洋野町の大井利江選手に出場の期待がかかります。なお、パラリンピックの聖火は、県内すべての市町村から採火され、岩手県の聖火として 1 つに集めて、東京に運ぶこととなっています。この採火イベントの企画・運営は各市町村に委ねられておりますので、皆様に関わる機会があるかもしれません。もしも、その機会がありましたら是非、積極的にご協力いただければ幸いです。

また、開催が近づくにつれ、東京パラリンピックは世界最高峰のパラアスリートによる競技スポーツの祭典であるとともに「共生社会の実現」のための祭典であるという意識が高まっています。よって、2020 年以降も持続的な取組みが行われるよう、官民間問わず、連携を図っていきたくと存じます。

CONTENS



■特集記事

P2/第 2 回あまちゃんカップ (JICA がやってきた)
P4/サントリーチャレンジスポーツ体験教室@陸前高田市

■活動報告 (P5~P11)

第 20 回岩手県障がい者フライングディスク交流大会/キャンプ交流会/一関市&気仙沼市障がい者スポーツ協会交流事業/グラウンドゴルフ花巻交流大会/いきいき茨城ゆめ大会派遣選手強化合宿/いしがきミュージックフェスティバル 2019 他

■掲示板 (P11)

第 23 回さわやか水泳記録会/障がい者スポーツ特別研修会/ボウリング交流会/障がい者スキー交流会 2020

■会員紹介 (P12)

ホームページについて

開催要項、申込書データのダウンロードや詳細情報は当協会のホームページよりご覧ください。

URL → <https://www.iwate-adaptive.or.jp/>



お問合せ先：一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
岩手県障がい者スポーツ指導者協議会
岩手県卓球バレー協会

TEL 019-637-5055 / FAX 019-637-7626

E-mail : info@iwate-adaptive.or.jp

第2回あまちゃんカップを開催!

8/25 (日) 今年も JICA チームが久慈にやってきた!

JICA?なぜ卓球バレー?なぜ久慈?

*JICAについて

まず JICA について簡単に紹介します。独立行政法人国際協力機構/JICA (Japan International Cooperation Agency) は、日本の政府開発援助 (ODA) を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。様々な支援プログラムがありますが、今回も「スポーツを通じた障害者の社会参加」が研修テーマとなっています。

*なぜ卓球バレー?

卓球バレーは障がいの有無、年齢性別に関わらず取り組みやすいことに加え、高価な競技用具が不要となるため、開発途上国にとっては、低予算で普及できることもメリットです。今では南米各地の他、ラオスやウズベキスタン等でも普及が始まっています。

*なぜ久慈?

久慈市では地域におけるコミュニティスポーツとして卓球バレーを活用した取り組みを実施しています。障がい者のみならず地域包括的な活動をする久慈地域卓球バレー協会が設立されるなど、地域普及のモデルケースとなっています。JICA の研修チームは昨年に引き続き2度目の訪問となりました。

本県で実施した研修プログラム(抜粋)

本県では主に以下のプログラムを実施しました。

8/21 施設見学

※盛岡となん支援学校、岩手県立療育センター

8/22 講義

①本県における障がい者スポーツ振興

②卓球バレー普及、指導者養成講習会

8/24 施設見学/ひばり療護園 (卓球バレー交流)

久慈市歓迎レセプション (地域との交流)

8/25 第2回あまちゃんカップへの参加



▲8/22にはふれあいランド岩手で研修を行った。①本県の障がい者スポーツ振興の講義資料 (英語版)。②~③卓球バレーの歴史・普及・活用方法とルールを学び、卓球バレー練習! 数日後のあまちゃんカップに挑みます (講師は日本卓球バレー連盟副会長兼普及委員長 堀川氏)

盛大に開催された歓迎レセプション

日時: 令和元年8月24日 (土) 18:00~

会場: 久慈グランドホテル

レポート: 今年も JICA 研修生の歓迎レセプションを開催。久慈市は国際交流の歓迎ムードに包まれました。今回も、地元の大会運営委員の皆さんの企画により、多くの関係者やゲストをお招きし、アトラクションや様々な余興もあり、とても楽しい時間となりました。

オープニングは、久慈中学校マンドリン部の皆さんの演奏でスタート。普段、マンドリンの演奏を聴く機会は少ないのですが、本当に美しい音色でした。「上を向いて歩こう」「アナと雪の女王」「あまちゃんのテーマ」と外国の皆さんにも馴染みのある曲を選曲していただきました。レセプションの終盤では、定番となりつつあるビートルズの名曲「Hey! Jude」の大合唱です。皆で肩を組む日本スタイルで大いに盛り上がりました。まさに ONE TEAM ですね~



▲①会場前の表示、②久慈中学校マンドリン部の皆さん、③藤井会長の主催者挨拶、④~⑤英語はよくわからずとも、盛り上がっている参加者たち。⑥JICA 研修生の皆さん。自国の伝統衣装をまとう方もおりました。今回は、10か国11名が参加しました。⑦最後は全員で「Hey! Jude」の大合唱! で閉会を迎えたのでした~

第2回あまちゃんカップを開催!

期日：令和元年8月25日(日)

会場：久慈市民体育館・メインアリーナ

*24チームが参加! オールフリールールを採用

今年のアマちゃんカップには県内とJICA研修生の2チームを加え、24チームが参加しました。地域の大会は、オールフリールール(障がいの有無、年齢・性別を問わず参加できる)として実施することにより、地域におけるコミュニティ作りに寄与することを目的としています。また、参加クラスの名称は、地域性を考慮し、競技性の高いクラスを「あまちゃんクラス」、親睦・交流を中心とするクラスを「琥珀クラス」、体験希望・初心者が参加する「まめぶクラス」としております。なお、大会運営には久慈市、久慈市教育委員会、久慈市スポーツ推進委員協議会をはじめ多くの方々からスタッフとして協力をいただきました。審判団は県外から茨城県卓球バレー協会・及川会長をはじめ、遠路足を運んでいただきました。おかげさまで大会運営はスムーズに進めることができました。



▲あまちゃんクラス決勝。アスレクト(奥)対サーモンみやこ(手前)。主審は菅野氏(左・岩手)、副審は天野氏(右・茨城)

県内無敵?アスレクトが連覇達成!

あまちゃんクラスでは県内無敵アスレクトチームが優勝。準決勝で予選1位の飛天ドラゴンを破ったサーモンみやこが準優勝。3位は飛天ドラゴンとなりました。地元、ひばり療護園「うに」チームも大健闘し、4位でした。琥珀クラスは、ひばり療護園の兄弟チーム対決を制した「こはく」が優勝、「ティーレックス」が準優勝、第3位には予選リーグからぐんぐんと力をつけた「JICA琥珀」が入りました。同じく「JICAまめぶ」チームは素晴らしい試合内容でしたが、惜しくも予選敗退。なお、JICAチームには敢闘賞が贈呈されました。

SUNTORY

公益社団法人
日本フィランソロビー協会

第2回あまちゃんカップは、東日本大震災復興支援サントリー東北サンさんプロジェクト「チャレンジド・アスリート奨励金」の助成の他、以下の企業・団体様からのご協賛により実施いたしました。
久慈グランドホテル/久慈恵愛病院/そば処 更科/株式会社サンメディカル/有限会社七福神/ルイケ時計店
社会福祉法人修倫会 松柏園/令和元年度田野畑・尾肝要普及道路安全衛生連絡協議会/カラオケスナック・ハッピー
株式会社ファーマ・ラボ/北星鉱業株式会社/マリンローズ野田玉川/宮城建設株式会社/株式会社ヤマイチ



▲①会場となった久慈市民体育館メインアリーナ・6コートで実施。②開会式の様子。③昨年に引き続き、久慈市長遠藤譲一様にご出席いただきました。④選手宣誓は久慈市身障協会の立成さんと戸舘さん、⑤~⑥JICAチームも真剣勝負!⑦地元対決!田中寿会(手前)対こはく(奥側)、⑧3位決定戦は強豪対決。飛天ドラゴン(右)対うに(左)の対戦はフルセットの末、飛天ドラゴンが制しました!

チャレンジド・スポーツ体験教室を開催!

8/4 (日)「卓球バレーたかたサントリーカップ」を同時開催!

チャレンジド・スポーツ?

～サントリーグループの取り組み

この事業は、サントリーグループが行う東日本大震災からの復興支援活動「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として開催されました。このプロジェクトの4本柱は、「漁業支援」「子どもたちの支援」「文化・スポーツの支援」と「チャレンジド・スポーツの支援」となっています。また、サントリーグループでは障がい者スポーツを「チャレンジドスポーツ」と捉え、障がい者のトップアスリートの支援からスポーツ導入や普及活動まで幅広い活動を展開しています。企業において生涯スポーツとしての普及・導入を支援する例は少なく、当協会にとって、とても心強いパートナーとなっています。



▲①このプロジェクト名は、太陽(サン)の光が皆さんとふりそそぐように笑顔と希望を届けたいという思いが込められている。

▲②陸上競技用車いす体験(通称:レーサー)。③ユニバーサルスポーツを活用した参加底辺の拡大にも積極的に取り組んでいる。

チャレンジド・スポーツ体験教室 & 卓球バレーたかたサントリーカップ

今回は陸前高田市で初めて開催する卓球バレー交流大会『卓球バレーたかたサントリーカップ』と同時開催となり、多くの参加者が陸前高田に集いました。会場となった夢アリーナたかたは多目的ホール(バスケットボールコート2面 or バレーボールコート3面)、アリーナ(バスケットボールコート1面 or バレーボールコート2面)とトレーニングルームにプール(25m×6コース)等がある素晴らしい施設です。また、駐車場は一般用が426台にひとにやさしい駐車場9台と大規模イベントにも対応できる沿岸随一の規模の施設と言えるでしょう。

このイベントでは多目的ホールにてチャレンジドスポーツ体験教室、アリーナで卓球バレー交流会を中心に行いました。体験教室には100名以上が参加。また、卓球バレー交流大会には県内7チーム、県外2チーム(宮城県気仙沼市、秋田県湯沢市)の計9チームの約70名が参加しました。

体験教室では、ゲストや講師をお招きし、アンプティサッカー、車いすバスケットボール、車いすラグビー、卓球バレー、ボッチャ、陸上競技用車いす(レーサー)の体験を行いました。卓球バレー交流大会では、アスレクトが優勝し、全体の閉会式にて表彰されました。優勝賞品としてサントリーウーロン茶1年分が贈呈されました。



▲①車いすバスケ体験/協力:ラッセル岩手(画像右はラッセル岩手キャプテン大和田洋平選手)&宮城MAX、②車いすラグビー体験/協力:TOHOKU STORMERS(画像右はリオパラ日本代表の庄子健選手)、③アンプティサッカー体験/画像右は日本代表・新井誠治選手、④ボッチャ体験会/協力:岩手県作業療法士会。この他、車いすレーサー体験、卓球バレー大会にもスタッフ派遣をいただいた。⑤同時開催の「卓球バレーたかたサントリーカップ」/9チームが参加して熱戦を繰り広げた。⑥最後は恒例の記念撮影。

第20回岩手県障がい者フライングディスク交流大会を開催しました

◆期日：令和元年8月3日（土） ◆会場：ふれあいランド岩手

◆レポート：当日は、最高気温が35度と猛暑の中での開催となりました。猛暑対策として、大塚製薬工場よりご提供いただいた「OS-1」を全選手に配布。また、競技会場は陸上競技場でしたが、表彰会場は体育館へ変更。ただし、体育館は、空調がなかったため、館内の冷風を大型扇風機で体育館に送風するなど、可能な範囲ではありますが、暑さ対策を行いました。

さて、記念すべき20回大会もアキュラシーとディスタンスの2種目を実施。希望すればこの2種目にエントリー可能です。また、アキュラシー部門では正式ルールの5m、7mに加え、3mも実施。障がい程度や経験年数等に配慮しており、誰もが気軽に参加できる大会として定着しております。暑さが懸念されましたが、審判、係員、ボランティアスタッフのご協力により無事に終了することができました。岩手県障がい者フライングディスク協会をはじめ、関係者の皆様にあらためて感謝を申し上げます。



▲①最高気温35℃！②アキュラシーは3mの部もあり、障がい程度に応じて参加可能。③ディスタンスの部に出場した根澤奨磨選手。練習を重ね、きれいな回転でディスクの距離を稼いでいます。④熱射病の恐れがあったため、待ち時間の長い可能性がある表彰式は体育館で実施。画像は恒例のボランティアによる万歳隊！⑤本大会の入賞メダルは、金メダルが盛岡市立しらたき工房（盛岡市）、銀メダルはハックの家（田野畑村）、銅メダルはワークまほろば（花巻市）、参加賞はけやき学園（紫波町）の皆さんが製作を担当。今回も感謝です！

キャンプ交流会を実施しました！久しぶりの再会もあり…

◆令和元年9月1日（日）～2日（月）

◆サンタハウス GETO（北上市）

◆レポート：今年もサンタハウス GETO にて開催しました。

野外でバーベキューを囲んでみんなで語らい、コテージに宿泊するというメニューとなります。ずいぶんお気楽な企画だな～と思うかもしれませんが、このような機会は障がい当事者自身が行うことは、少しハードルが高いという現状もあります。できるかぎり多くの方々に参加していただき、そして、この経験を多くの方々に伝えてもらい、それぞれの地域でも自主的な企画実施につながることを期待しております。

さて、今回は、久慈市、大船渡市、一関市、奥州市、盛岡市等から26名が参加。天候にも恵まれ、準備も順調に進みました。大船渡メンバーの差し入れの牡蠣や中野製麺提供のギョウザを加え、さらに豪華さを増したメニューに舌鼓を打ちながら楽しい仲間たちとの会話に花を咲かせたのでした。



▲①まずは、みんなで協力して会場設営・食材準備です。②準備ができたなら、あとは飲みながら、食べながら、楽しみましょう！③日が沈んだら花火タイム。④夢見る？乙女たち

一関市&気仙沼市障がい者スポーツ協会が卓球バレーで交流!

◆令和元年9月7日(土)◆会場:本吉保健福祉センター「いこい」

◆レポート:全国的に見ても、政令都市を除く市において障害者スポーツ推進組織を持つ例は少なく、両市の取組みは先駆的な事例と言えるでしょう。そして何と両市は岩手・宮城の県境を挟むお隣同士ということで、連携・協同をテーマに昨年からはスタートした交流事業です。昨年は、一関市が会場でしたが、今年は気仙沼市の本吉保健福祉センターが会場となりました。また、夜の部として、参加希望者限定ですが、豪華料理で有名な民宿「沖見屋」での懇親会も行われました。

さて、参加者は一関市、気仙沼市の卓球バレー関係者と、内陸部や県外からの参加もあり、70名ほどが集まりました。当初は卓球バレーの体験交流を行う予定でしたが、卓球バレーチーム単位での参加が多かったために急遽、8チームに編成し、交流大会として開催しました。

午前中は組合せ抽選により、4チーム×2組のリンク戦を行いました。午後は各組1位と2位の4チーム、同じく各組3位と4位の4チームでリンク戦を行い、午前と午後の勝点を基本に順位を競いました。また、技術交流も行われ、特に茨城県で行われる全国大会に出場する気仙沼チームの強化練習も行いました。一関市、気仙沼市の交流に加えて、他地域からの参加チームも加わったことで、卓球バレーを通しての交流の輪の広がりを感じました。両市の関係者の皆様、特にご尽力いただいた気仙沼市障害者スポーツ協会と気仙沼市身体障害者福祉協会の皆さま、審判協力をいただいた岩手・宮城の両卓球バレー協会の皆さんをはじめ多くの方々に感謝を申し上げます。



▲一関市、気仙沼市の他、岩沼市、大船渡市、遠くは秋田県から8チームが参加し、卓球バレーを通しての交流を楽しみました。



▲①ピーイング小野小町(奥側・秋田県)対気仙沼A(手前)、②まるご大盛(奥側・大船渡市)対花泉B(手前・一関市)、③会場となった気仙沼市の本吉保健センター「いこい」。ホールには卓球台を2台置くスペースがあり、地域の交流大会の開催も可能である。④交流会終了後は地元で人気の民宿「沖見屋」で懇親会を開催しました!料理が絶品のお宿です。

絶好のコンディションの中、グラウンドゴルフ花巻交流大会を開催!

◆令和元年9月10日(火)◆日居城野運動公園(花巻市)

◆レポート:本年度、2回目のグラウンドゴルフ交流大会は花巻市・日居城野運動公園で開催されました。この運動公園は花巻球場、花巻市総合体育館、陸上競技場を有し、学校の部活動から数多くの競技大会やイベントが開催される県内屈指のスポーツ拠点となっています。この園内にある芝生広場はグラウンドゴルフコースとして毎週数多くの大会が行われます。もともとはゴルフ場だったとのことで、林に囲まれたきれいな芝の美しいコースです。さて、この日は天候に恵まれ、芝の長さを含め、絶好のコンディションでの開催となりました。参加者は、地元花巻市を中心に八幡平市、盛岡市、紫波町、北上市、金ヶ崎町、奥州市、一関市、平泉町から約60名が参加。8ホール×2コースの合計16ホールの合計打数で順位を競いました。表彰区分は男性部門、女性部門、団体部門、ホールインワン賞他となっています。しかしながら順位よりも、県内各地からの参加者の交流の機会として根付いているイベントでもあります。今回の結果は以下のとおりです。

- ◆個人の部(男性)
- 第1位/柴田 富栄(紫波町)/40点
- 第2位/高橋 孝明(北上市)/43点
- 第3位/菅野 謙一(奥州市)/44点
- ◆個人の部(女性)
- 第1位/富松 ハヤ(金ヶ崎町)/46点
- 第2位/柳沢 キエ(北上市)/49点
- 第3位/家子 松子(奥州市)/50点
- ◆団体の部(5名の合計打数による)
- 第1位/江刺チーム/237点
- 第2位/東和チーム/242点
- 第3位/きたかみチーム/255点

- ◆ホールインワン賞
- 柴田 富栄(紫波町)、皆川 富男(一関市)、家子 松子(奥州市)
- ◆トビ賞
- 男性の部:菊池 孝男(奥州市)、小原直幸(花巻市)、千葉 弘一(平泉町)、伊東 次夫(花巻市)、鈴木 伸也(金ヶ崎町)、菊池 弘龍(花巻市)/女性の部:葛尾 文子(花巻市)、伊藤 美智子(一関市)



▲①元がゴルフ場だったため、景観のきれいなコースです。②~③プレーを楽しむ参加者、④プレゼンターは花巻市スポーツ推進委員の池田豊さん。自身も大迫支部のグラウンドゴルフ協会の事務局長を務めている。賞を受け取るのは男性部門優勝の柴田富栄さん(紫波町)、⑤女性部門優勝の富松ハヤさん(金ヶ崎町)、⑥団体部門の表彰

いきいき茨城ゆめ大会派遣選手の強化合宿を実施！

◆令和元年9月21日（土）～22日（日）

◆ふれあいランド岩手、盛岡市立総合プール、盛岡スターレーン、サンセール盛岡（宿泊）

◆レポート：この練習会は、第19回全国障害者スポーツ大会・いきいき茨城ゆめ大会への派遣選手を対象としており、7月に続き、2回目の合同練習です。今回は合宿として2日間の日程で開催されました。

最初に、体育館にて茨城への移動手段や宿泊先、持ち物等を確認するための説明会を行い、その後、各競技の練習場所に分かれて練習を行いました。1日目は天気が持ってくれましたが、2日目は雨降りとなったため、屋外競技については若干メニューを変更して行いました。1日目の練習終了後は、サンセール盛岡に宿泊しました。夕食会では、各競技からの選手・スタッフ紹介をしていただきながら懇親を深め、選手団としての結束力が高めました。



▲①初日の全体説明会の様子。②陸上競技・投てき練習、③義足使用の原田サメ選手のサポートする陸上競技の白藤監督、④陸上知的・聴覚選手のウォーミングアップ、⑤宿泊先・サンセール盛岡での夕食会、⑥フライングディスク練習（雨天によりピロティにて）

いしがきミュージックフェスティバル 2019 に参加しました！

◆令和元年9月23日（秋分の日）

◆会場：カワトクステージ他（全10会場）

◆レポート：前日の台風通過の影響で天候が心配されましたが、何とか無事に当日を迎えました。岩手県社会福祉事業団の皆さんが担当することになってから3年目となりました。今年もカワトクステージに障がいのある方々を中心としたグループが集いました。

オープニングを務めるのは何と9年連続出演の「Naughty Boys」です。すでにカワトクステージではおなじみの「伝説の盲人バンド」です。メンバーは盲学校（現在の盛岡視覚支援学校）出身でキーボード、ベース、ギター、パーカッションを駆使したムードミュージックにフォークソング等の数多くのレパートリーがあります。続いての出演者はNPO法人「未来の扉」です。法人活動のプログラムにストリートダンスを取り入れ、障がいのある子供たちが難しいダンスにチャレンジすることで様々な面での成長につなげようとして取り組んでいます。3番目は、こちらもおなじみの「のびっこ療育センター」。障がいを持つ子供や青年たちと支援者・家族で構成される和太鼓グループです。オリジナル曲「のびっこ太鼓」は多くの聴衆に元気を与えてくれます。そして、続いては「KING GUNS and ROGUE GUNS」。こちらは盛岡聴覚支援学校の生徒さんと教員とで構成されたバンドで、いしがきMFは初出演となりました。「近眼と老眼」を上手く文字り、カッコいいバンド名になりました！ライブでの楽しいパフォーマンスは、聴いている皆さんを思わず笑顔にしてくれました。参加していただいた皆さん、ありがとうございました。



▲①Naughty Boys～今年もカワトクステージのオープニングを務めた。②NPO法人「未来の扉」～県の障がい者スポーツ大会でもおなじみの団体です。③のびっこ療育センター、④初出演となった「KING GUNS and ROGUE GUNS」

宮古田老ゲートボールユニバーサル交流大会を開催しました！

◆令和元年9月25日（水）～26日（木）◆会場：グリーンピア三陸みやこ（宮古市）

◆レポート：身障者のゲートボールにとってグリーンピア田老は特別な場所です。ここ数年は、ゲートボール人口が減っています。これは身障者だけではなく、健常者も同様に減少傾向にあるようです。この大会を通して取組みたいのは、競技人口を増やすということだけではなく、ゲートボールの魅力であるユニバーサルスポーツとしての特性を活用しながら、障がいのある人もない人も一緒に競い合い楽しむことです。そのことが共生社会の推進につながることを期待しています。

さて、本大会は、2日間に渡り開催され、今回は10チームが参加しました。身障者関係チームは5チーム健常者チームが5チームとなりました。最初に組合せ抽選を行い、1次リーグの組み合わせを決定しました。2次リーグと3次リーグは各組の同順位同士のリーグ戦を行うため、1位同士、2位同士、3位同士の争いとなります。若干、変則的ですが、例年、順位が二転、三転して最後までわからなく面白い試合展開となっています。試合経過は1次リーグで先行したのが、近揚会、田老・三王岩、龍泉洞の3チーム。

この3チームが2次リーグではすべて1勝1敗となり、混戦になりました。1位通過は龍泉洞、2位通過は近揚会、3位通過は田老・三王岩となり、最終3次リーグへ。ここでは、3位リーグで得点を稼いだ田老・三王岩が大逆転で1位となりました。なお、1日目終了後には遠方参加の皆さんはグリーンピア三陸みやこに宿泊して、懇親会を開催。三陸の海の幸と美味しいお酒をいただきながら、交流を深めました。最後になりましたが宮古市ゲートボール協会と運営アドバイザーを務めた佐々木浩さん、様々にご配慮をいただいたグリーンピア三陸みやこをはじめ多くの皆様に感謝を申し上げます。



▲①～②会場となったのはグリーンピア三陸みやこに隣接するパシフィックアリーナ。ゲートボールコート8面と人工芝の室内競技場では県内最大。③今回は、10チームが参加して熱戦を繰り広げた。④～⑤施設には段差がなく、身障者用トイレも完備されており、車いすのプレーヤーも安心して競技に参加できる。⑥もう一つの楽しみである懇親会から。低い料金設定ですが、料理が豪華なんです！

グラウンド・ゴルフ一関交流大会を開催！

◆期日：令和元年10月2日（水）

◆会場：駒場交流公園（一関市千厩町）

◆レポート：6月に開催予定でしたが台風の影響により、10月に延期としました。当日は、天候に恵まれ、この時期としては暑さを感じるぐらいの気候となりました。一関市グラウンドゴルフ協会千厩支部の皆さんにより整備いただいたコースはとてプレーしやすい状態になっておりました。参加者が40名ほどと少な目だったので、今回は1つのコースを2回ラウンドして順位を競いました。活躍が目立ったのが車いすのプレーヤーでした。ホールインワンも達成するなど上位に食い込む大健闘でした。また、一関市身体障害者協議会より賞品をご提供いただきました。一関市グラウンドゴルフ協会千厩支部の皆様には会場準備からスコア記入まで大変お世話になりました。あらためて感謝を申し上げます。

◆個人の部（男性）

第1位／藤井 公博（花巻市）／36点

第2位／沼里 基志（盛岡市）／38点

第3位／千葉 貞一（一関市）／42点

◆個人の部（女性）

第1位／鈴木 伸江（一関市）／40点

第2位／菊池 次子（一関市）／44点

第3位／富松 ハヤ（金ヶ崎町）／49点

◆団体の部（5名の合計打数による）

第1位／金ヶ崎チーム／250点

第2位／一関Aチーム／251点

第3位／一関Bチーム／256点

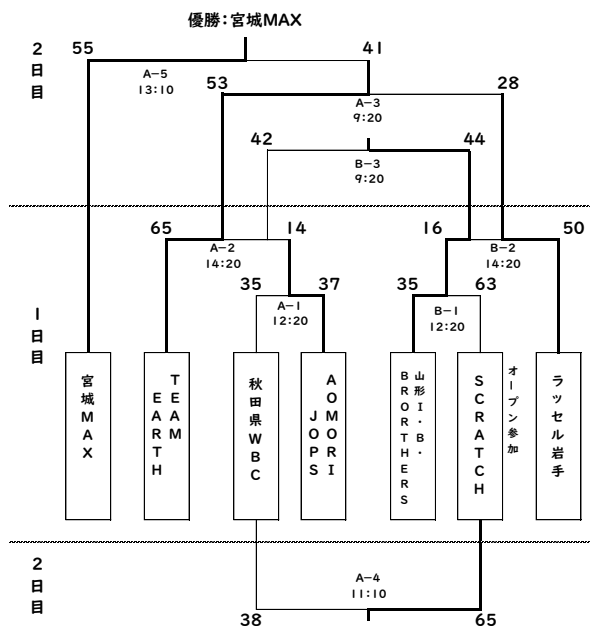


▲全員で記念撮影。参加された皆様、ありがとうございました！

天皇杯 第48回日本車いすバスケットボール選手権大会 東北ブロック1次予選会を開催しました！

大会結果

組み合わせ



- ◆期日：令和元年10月5日（土）～6日（日）
- ◆会場：岩手県営体育館
- ◆レポート：数年前までは内閣総理大臣杯争奪と冠称がついておりましたが、天皇后両陛下のこれまでの障がい者スポーツに対する心配りや功績、また、障がい者スポーツの進展を鑑み、第46回大会より天皇杯という冠称となりました。また、昨年度より予選会の方式が変更されました。東北ブロック1次予選会では2チームが東日本2次予選会に進出することができます。東日本2次予選会には北海道ブロック2チーム、東北ブロック2チーム、関東ブロック4チーム、東京ブロック2チーム、甲信越ブロック2チームの12チームがトーナメント戦を行い、上位3チームが本大会に出場します。なお、本大会は、前大会優勝チーム、準優勝チーム、東日本3チーム、西日本3チームの8チームによるトーナメント戦を行います。



▲①開会式～選手宣誓はラッセル岩手キャプテン大和田洋平選手、②秋田県WBC（白）対SCRATCH（黒）の交流戦

アスレクトチーム（盛岡市）が見事準優勝！

- ◆期日：令和元年10月6日（日）
- ◆会場：取手グリーンスポーツセンター

いきいき茨城ゆめ卓球バレー全国交流大会に出場！

◆レポート：ユニバーサルスポーツとして注目を集める卓球バレー。全国大会開催は、2008年大分大会、2011年山口大会、2015年和歌山大会、2016年岩手大会、2017年京都大会、2018年福井大会に続いて7度目となります。

本大会には、チャレンジクラス（競技性クラス）に20チーム、いばラッキークラス（親睦性クラス）に14チーム、体験クラス（初心者クラス）に8チームの42チームが参加しました。これまでの最多参加チーム数であり、選手数も431名で最多、競技役員、ボランティア含め、合計840名が参加する大規模なイベントとなりました。本県からは、チャレンジクラスに「アスレクト」が会場。午前中の予選リーグは全勝でトップ通過し、午後の決勝トーナメント（8チームによる）に進出。決勝トーナメントは初戦（準々決勝）で地元、茨城代表の「れっつ・ごー！茨城」と対戦。試合は予想通りの大接戦の末、見事、アスレクトが勝利。準決勝では全国大会連覇中の山口代表「ひまわり」と対戦。こちらも、フルセットまでもつれる攻防がありましたが、最終セットはアスレクトが圧倒して決勝進出。決勝はなんとこれまた同士チームである埼玉代表の「オール春日部」でした。これまでに考えられなかった東ブロック対決です。試合は、どちらに転ぶかわからない場面もありましたが、オール春日部が制し、初優勝を遂げました。今回は東ブロック勢の活躍が目立ちました。秋田代表の「はまなす」、宮城代表の「宮城気仙沼」を含め、8チーム中、4チームが東ブロックでした。2016年に開催された岩手大会以降、東ブロックへの卓球バレーの広がりを感じる大会となりました。



▲①全国から42チームが参加！人・人・人。②準々決勝はなんとアスレクト（右・岩手）対れっつ・ごー茨城（左・茨城）との同門対決に。③競技会場の取手グリーンスポーツセンター。④オープン競技にも全国障害者スポーツ大会の正式メダルが授与される。

いきいき茨城ゆめ大会2019は全競技中止となりました

超大型台風19号の接近する中、不安を抱えているところでしたが、10月9日（水）17時ごろに一部競技の中止が決定され、最終的には10月10日（木）15時ごろに全競技中止の連絡が入りました。この時点では、すでに上野駅に到着しており、陸上を除く競技選手団が、新幹線の乗車変更手続きにより、盛岡に戻りました。陸上競技選手団は、翌日に盛岡に戻りました。

なお、10月19日より茨城県庁にて中止決定の経緯説明を受けました。2016年希望郷いわて大会を開催した岩手県民にとっては、数年間に渡り準備を重ねてきた茨城の関係者の心中を察すると何とも言えない思いでした。また、難しい判断を迫られる中、最善の対応をしていただいた茨城県の皆様の労をねぎらいたいと思いました。何とか大会を開催させてあげたかったです。



▲10月11日（木）の出発式（盛岡駅）。このときまでは、気合十分でしたが・・・

第2回卓球バレー指導者養成講習会を開催しました！

◆期日：令和元年10月19日（土）◆会場：ふれあいランド岩手

◆レポート：岩手県作業療法士会との共催事業として開催。資格取得希望者の9名他、卓球バレーチーム「もりおかTVC」「アスレクト」には実技のサポートを、また審判実技補助として公認審判員3名の協力をいただき、合計20名ほどの参加となりました。受講者の中で2名が精神科の作業療法士でした。卓球バレーの競技特性はどちらかというと身体障害にアプローチしやすいというイメージですが、高齢化が進む精神科病院や事業所にも注目され、卓球バレーの導入が始まっています。

さて、今回は全体枠が3時間と短めでしたので、最初の講義を短くして、審判実技の練習時間を十分に確保できるようにしました。実技では、1級審判員の池田さん、2級審判員の板垣さん、公認指導者の加藤さんにお手伝いをいただきました。ご協力いただいた皆様にあらためて感謝を申し上げます。



▲審判実技の様子。すべての受講者に主審・副審を体験していただきます。

岩手県卓球バレー交流大会2020を開催しました！

◆期日：令和元年10月20日（日）◆会場：ふれあいランド岩手

◆レポート：日本卓球バレー連盟副会長兼普及委員長・堀川裕二さんの来県60回記念大会として開催！

今年度より、岩手県委託事業「障がい者スポーツ団体によるスポーツを通じた共生社会づくり推進事業」として開催しました。大きな変更点としては、オールフリールールの採用です。すでに地域大会では実施していますが、ここふれあいランド岩手で開催している大会では初めての試みとなります。一般の老人クラブ等への普及はこれからですが、今後の広がりを考えるといわゆる健常者チームの参加が増加してくることが想定されます。一度、火が付くと一気に広がるのが卓球バレーですので、指導者養成も急務となります。

さて、本大会にはチャレンジクラス（競技性クラス）15チーム、わんこクラス（交流クラス）6チーム、体験クラス2チームの合計23チームが参加し、熱戦を繰り広げました。チャレンジクラスでは、4ブロックにてリーグ戦を行い、各ブロック上位2チームが決勝トーナメントにて最終順位を競います。結果は「アスレクト」が優勝、準優勝が「さんさ」。3位には秋田県から参加した「はまなす」が入りました。この日、好調だった「もりおかTVC」が惜しくも4位となりました。わんこクラスは優勝が「385みやご」、準優勝は初出場の「脊損会」で健闘が光りました。第3位は久慈市の「ひばりマーズ」が入りました。そして4位はこちらも大健闘の「北上パープルズ」でした。今後も卓球バレーの普及活動には力を入れ、県内に8つある旧身体療護施設（ひばり療護園を含む）の交流事業や公民館レベルでの普及活動を行い、より多くの方が障がいのあるなしに関わらず楽しめる大会を目指していきたいと思っております。最後になりましたが、60回の来県を数える堀川さん、審判・スタッフをはじめ多くの方々にあらためて感謝を申し上げます。



▲①会場のふれあいランド岩手（8コート設置）、②スマイル（左）対勝っちゃんず（右）、③ひばりピーナス（左）対はまなす（右）、④花巻A（左）対かねがさきA（右）、⑤初出場の脊損会（左）対北上パープルズ（右）、⑥宮古身障福祉会（手前）対飛天バッファローズ（奥）、⑦決勝戦・さんさ（左）対アスレクト（右）決勝戦は堀川さんが主審を務めた。⑧表彰プレゼンターを務める堀川さん

岩手県知的障害者福祉協会「第23回スポーツ交流会」に参加しました！

◆期日：令和元年10月26日（土）◆会場：紫波町総合体育館
 ◆レポート：岩手県知的障害者福祉協会の会員は知的障がいを中心とする事業所が中心となっています。毎年、開催されるこのスポーツ交流会を皆さん楽しみにしていると聞いております。当協会は午後からのニュースポーツ体験会のポッチャ及び卓球バレーの運営協力ということで参加しました。午前中のプログラムは、卓球、フライングディスク、輪投げの3種目を実施しました。午前の部が終了し、昼休憩を挟んで午後は希望者によるニュースポーツ体験会を行いました。種目はフライングディスク、ポッチャ、卓球バレー、フロートRです。いずれの種目もレク的な要素も含まれますが、年齢、性別、障害程度を問わずに楽しめる種目で、それぞれのコーナーで大いに盛り上がりおりました。利用者の高齢化が進み、スポーツへの参加は難しくなっている事業所が増えていると聞いております。今回、体験していただいた種目は多くの方々に参加していただける可能性がある種目です。是非、余暇活動の機会として取り組んでいただければと思います。もちろん、その際にお手伝いが必要な場合は当協会やふれあいランド岩手にお気軽にお声がけください。



▲①フロートRの体験。盛り上がりすぎですね。②卓球バレー体験も大盛況です！

「第2回障がい者スポーツ育成研修会」に参加しました！

◆期日：令和元年10月27日（日）◆会場：ふれあいランド岩手
 ◆レポート：この研修会は県が主催して行うパラアスリートの発掘・育成を目的とした競技力向上にアプローチする取り組みです。大きな特徴として、本県の強みである健常者アスリート育成に力を発揮している「スポーツ医科学」に関わる方々がサポートしている点にあります。しかしながら、障がい者スポーツにおいてスポーツ医科学領域の研究はまだ歴史が浅いと思われ、各障害種別におけるスポーツ栄養、メンタルトレーニングのデータは一般的に入手することが困難な状況があります。よって、この研修会においても担当するスタッフは手探りの部分もあり、ご苦勞をおかけする部分も多いと思いますが、回を追うごとに工夫を重ねて充実した内容になっていると思います。



▲午後に行われた体力測定。障がい者スポーツトレーナーやアスレチックトレーナー等が担当。午前の講義では「競技力向上に向けての歯のコンディショニング」について学んだ。

掲示板 -BBS-

事業内容や活動団体の紹介、様々なニュースやおすすめのイベント情報等をピックアップ！皆様からの情報もお待ちしています！

詳細情報は当協会HPをご覧ください→<https://www.iwate-adaptive.or.jp/>

第23回さわやか水泳記録会開催のお知らせ

ふれあいランド岩手からのご案内です
 ■期日：令和2年1月25日（土）
 ■時間：9時半受付開始
 ■会場：ふれあいランド岩手・プール（TEL019-637-4469）
 ■対象：身体、知的、精神のいずれかの障がいのある方及び一般
 ■参加費：障がい者及び高齢者は無料。一般440円



障がい者スキー交流会2020のご案内

車いすの方でもチェアスキー使用でスキーを楽しむことができます！
 ■期日：3/7（土）～3/8（日）
 ■会場：安比高原スキー場
 ■内容：障がい者スキーのサポート講習会、懇親会（情報交換会）、様々な障がい種別に対応するスキー教室を開催。宿泊希望の場合は、安比高原内の宿泊施設となります。
 ■参加費等の詳細は当協会のホームページをご覧ください。



ボウリング交流会を開催します！

■日時：2/20（木）10時～13時
 （9時半受付／プレー10時～12時／昼食会12時～13時）
 ■会場：ボウリング・クオリア（奥州市／TEL0197-24-1173）
 ■参加対象：障がいの有無を問わずどなたでも参加可能。
 ■内容：ボウリングを通してのスポーツ交流



障がい者スポーツ特別研修会を開催します！

『パラリンピックの役割を考える～教育・メディア・政治の視点から』

■日時：令和2年1月26日（日）13:00～15:50（受付12:30～）
 ■会場：ふれあいランド岩手・ふれあいホール（1階）
 ■内容：基調講演、パネルディスカッション
 ■出演者：
 ①星加 良司 氏（東京大学 大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 准教授）
 ②山田 潔 氏（NHK放送文化研究所 メディア研究部 研究主幹）
 ③横沢 高德 氏（参議院議員／バンクーバーパラリンピック冬季大会日本代表）
 ④橋本 大佑 氏（一般社団法人コ・イノベーション研究所 代表理事）



パラリンピックの開催目的は？意義は？共生社会の実現のために何をすべきなのか？共に考えましょう！

会員紹介 -Our Partners-



(令和元年 12月26日現在 敬称略・順不同)
いつもあたたかいご支援をいただきありがとうございます！

賛助会員一覧 (団体)

(一社)岩手県建設業協会	(株)やよいデイト	(有)タイガースポーツ	名鉄観光サービス (株) 盛岡支店
(株)IBC 岩手放送	岩手電工 (株)	(一社)岩手県医師会	(株)カガヤ
(株)北日本銀行	(株)アイシーエス	(株)岩手日報社	(株)久慈設計
府金製粉 (株)	いわて生活協同組合	(株)志百家	(一社)岩手県理学療法士会
(株)明和土木	(株)ヤマイチ	岩手トヨペット (株)	(株)ヴィクトリア ネクススカンパニー
白金運輸 (株)	小岩金網 (株)	(株)中野製麺	(株)長谷川建設
菱和建設 (株)	(株)藤沢体育堂	(株)宮澤商店	岩手リオン補聴器センター
盛岡商工会議所	(株)寿広	(株)遠忠	宮城建設 (株)
(株)青紀土木	(株)川徳	(株)テレビ岩手	みちのくコカ・コーラボトリング (株)
(株)菊地建設	岩手雪運 (株)	(株)小林精機	(株)ユニバース
(株)アイエムアイ	(株)日盛ハウジング	岩手県産 (株)	岩手スポーツ用品販売 (株)
江刺岩手ライオンズクラブ	岩手電力 (株)	日本身体障害者団体連合会東北事業所	

賛助会員一覧 (個人)

内山 順一	菅 里美	平藤 淳	藤村 誠	堀川 裕二	白畑 由貴子
-------	------	------	------	-------	--------

バナー広告掲載中！

賛助会員のバナー広告は無料で掲載しております。現在、以下 27 団体のバナー広告を掲載中。その他、掲載依頼がありましたら随時、当協会 HP にアップいたします。詳細につきましてはお問合せ下さい。

正会員一覧 (団体)

岩手県知的障害者ソフトボール協会いわてスマイリーズ	(社福)岩手県社会福祉協議会	(社福)岩手県社会福祉事業団
(一社)岩手県作業療法士会	(株)トラスト保険	サークル「ゆうの会」
(NPO)岩手県精神保健福祉連合会	全国脊髄損傷者連合会岩手県支部	岩手県知的障がい者サッカー連盟
ドルフィンズ岩手	(社福)自立更生会	(社福)岩手県視覚障害者福祉協会
岩手県特別支援学校連絡協議会	岩手チアスキークラブ・イートーブ	岩手県 ID バasketボール連盟
(社福)岩手県身体障害者福祉協会	(社福)手をつなぐ	ラッセル岩手

正会員一覧 (個人)

佐藤 慎二	藤井 公博	伊藤 昇	高橋 修	民部田 誠	畠山 哲男	三浦 拓朗
佐藤 勝士	白藤 友一	笹木 正	今宮 正彦	横沢 高德	上村 弥	阿部 史憲
佐藤 佑哉	及川 貞之	佐藤 隆秀	野辺地 省吉	佐々木 満	井上 勝巳	篠原 政良
中野 正紀	佐々木 君夫	菊池 幸子	井上 君之	菅原 幸二	軽石 義則	佐々木 茂
小坂 亜純	小江 巧	岩淵 典仁				

◆会員の募集について◆
「Sports For All」の考えに基づき、障がいのある方が一人でも多く、いつでも気軽にスポーツに参加できるように取り組んでまいります。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします！

区分	金額
賛助会員	個人 1口 1,000円
	団体 1口 10,000円
正会員	個人 1口 1,000円
	団体 1口 5,000円

*** 問合せ先 ***
〒020-0831 盛岡市三本柳 8-1-3
(一社)岩手県障がい者スポーツ協会
TEL 019-637-5055
FAX 019-637-7626
E-mail : info@iwate-adaptive.or.jp
<https://www.iwate-adaptive.or.jp/>